

東山災害区（山梨，長野，岐阜）(4) 太平洋側災害区（千葉，東京，神奈川，静岡，愛知，三重）

15. 内田正昭（前橋気象台）：群馬県における注意報警報の基準について

注，警報基準作成のうち風，雨，雪，低温についての結果である。風は県内気象官署のうち最も大きい最大風速（大部分前橋）と，県内被害合計を対応させた結果同じ風速でも南東風で雨を伴う時被害が大きいことがわかった。雨は低気圧性と雷雨にわけ，流域平均雨重と流域最大雨重について基準を作った。雪は交通機関の不通やラッセル車の運行状況について調べたが，北部の多雪地では近年全輪駆動パスを使用しているためかなりの大雪でも運行可能であることがわかった。

16. 橋本梅治・鈴木義男（東京航空気象台）：煤煙の移流と大気汚染の日変化

東京都の大気汚染には一日2回の顕著な極大が現われる。朝の極大は接地層の昇温不安定化に同期しており，夜の極大のはじまりは接地層の安定化に同期している。朝の大気汚染の極大は，汚染源地帯の直接風下で大きくなるが，夜の大気汚染の極大はこれとは反対に汚染源地

帯をはなれた平野の奥の方からはじまり異常な高濃度となることがある。日中海風が侵入するような気象状態では，煤煙は平野の奥まで侵入し，奥地に高濃度汚染大気が現われる。この汚染大気は日没後は接地逆転と沈降気流のため急速に安定化し，地上を海上に向かって流れるのでこの大気の襲来するとき夜の大気汚染の極大が発生する。

17. 関谷 博（軽井沢測候所）：昭和39年3月の浅間山の頻発地震について

浅間山では噴火の前に小規模の火山性地震が頻発し易く，其の地震の発生数や規模と噴火との関係が統計的に求められていて，噴火予知の一つの目安になっている。しかし，顕著な頻発地震があっても必ずしも噴火を伴わないものもある。1964年3月の頻発地震もその一つの例であった。そこで，この地震がどのような性質のものであったかについて，震源のモデルや，過去の噴火を伴った頻発地震等とも比較して，詳しく検討した結果，地震の震源の深さが重要な factor であり，今回噴火出来なかったのは活動の位置が過去のそれに比べて，深すぎたことも其の原因の一つであることがわかった。

理 事 会 便 り

第 6 回 常 任 理 事 会 議 事 録

日 時：昭和39年11月2日（月）17.00～21.00

場 所：気象庁観測部会議室

出席者：正野，桜庭，北岡，須田，吉野，神山，小平，大田，増田，荒井各理事（順序不同）

決 議

1. 定款の改正については，次の3点について考える。
 - イ．総会の定員数について
 - ロ．外国会員の資格について
 - ハ．A．B会員について
 なおこの3点は，福岡で開催される全国理事会で検討する。
2. 同位元素学会の当学会との共催希望については，関係グループの希望もあるので，共催を承認して，運営委員をだす。
3. 本年12月中に機会をみて評議員会を開く。